

ザ・パークハウス オイコス 三国ヶ丘

三国ヶ丘に標す、新たな生活環境創造型マンション

建物概要

- 所在地：堺市北区東三国ヶ丘町1丁
- 建築主：三菱地所レジデンス株式会社
株式会社 NIPPO
- 設計者：株式会社長谷工コーポレーション
大阪エンジニアリング事業部
- 用途：共同住宅
- 敷地面積：6,892.42㎡
- 建築面積：2,340.55㎡
- 延べ面積：14,412.81㎡
- 構造：鉄筋コンクリート造
- 階数：地上11階
- CASBEE 評価：Aランク/BEE値 2.7
- 重点評価：CO₂削減 4.4/省エネ対策 3.8
みどり・ヒートアイランド対策 4.0



【立地、周辺環境】

本計画地は大仙陵古墳で有名な百舌鳥古墳群の北側に位置し、三国ヶ丘駅から徒歩9分。計画地の周辺には大きな公園やまとまった緑地帯があり、環境に恵まれた立地。

【総合的なコンセプト】

「三国ヶ丘に標す、新たな生活環境創造型マンション」をコンセプトに、環境と経済性に配慮し、地域環境と共生した、まちにも居住者にも温かいマンションづくりを目指した。また、「自然と人をつなぐ、ランドスケープデザイン」として、東、南東、南西の三方が道路となる角地の敷地周りには彩り豊かな緑を植樹し、遊歩道も整備するなど潤いのあるランドプランとし、敷地内の安全な通行に配慮、人や車などのアプローチを分離した動線計画を採用。新緑や紅葉による季節の移り変わりを感じることでできる植栽、蝶や鳥が生息しやすい環境づくりに配慮した植樹により、自然と溶け合った暮らしを演出できるよう計画した。

建物断面構成図

省エネルギー対策への取り組みとして、セットバック戸や共用空間上部の住戸に関しては特に断熱材を厚く計画することで住戸における「断熱性能等級4」を確保。



配置図



■断熱材仕様

部位	尺例	断熱材	断熱率 [W/(m ² ·K)]	材厚 [mm]	備考
屋根	非歩行用	(外断熱) 硬質ウレタンフォーム 保温板 2種2号	0.024	30	
	歩行用	(外断熱) 硬質ポリスチレンフォーム 保温板 3種	0.028	35	
	屋根下	(スラブ下) 吹付け硬質ウレタンフォームA種1	0.034	21	※窓型含む
上階物入れ	(内断熱)	吹付け硬質ウレタンフォームA種1	0.034	25	
	(内断熱)	吹付け硬質ウレタンフォームA種1	0.034	25	
外壁	壁・柱・梁	(内断熱) 吹付け硬質ウレタンフォームA種1	0.034	25	
		(内断熱) 吹付け硬質ウレタンフォームA種1	0.034	25	※窓型含む ※下層部はB種
床	共用部	(外断熱) 吹付け硬質ウレタンフォームB種	0.028	50	
	梁型	(外断熱) 硬質ポリスチレンフォーム 保温板 3種	0.028	20	※1/2以内を含む
	床板	(スラブ下) 吹付け硬質ウレタンフォームA種1	0.034	21	スラブ下全量
	ビッド	(外断熱) 硬質ポリスチレンフォーム 保温板 2種	0.034	20	

環境配慮事項とねらい

周辺緑地について

本計画の周辺には、百舌鳥古墳群をはじめとする、昔から地域に根ざした緑地が点在しており、これらは市街地における貴重な緑であり、堺市の自然環境の大きな特徴でもある。本計画では周辺緑地でみられる植物を選定して取り入れた。



ABINC 認証を獲得

地域の人・自然をつなぐ新たなみどりの拠点として、中百舌鳥古墳群など周辺の豊かなみどりと連動させ地域の生物環境の再生と、新たなみどりの拠点を創出する計画とした。

計画ポイントは以下3つに分類。

1. 計画地周辺に保育所、小・中学校があることから、住民だけでなく地域の子どもたちが自然環境と触れ合える緑地計画とする。
2. 地域の樹木や在来種を積極的に取り入れるなど生物多様性に配慮した緑化計画で、周辺環境と計画地を緑のネットワークでつなぐ。
3. ボリュームのある緑で落ち着きと重厚感のあるエントランスアプローチの演出。

また、地域の子どもたちが自然環境と触れ合える場として、自主管理公園に10m角の緑地空間を設けチョウ類を誘致するクスノキ、ヒラドツツジ等を植栽。止まり木や落ち葉溜め、巣箱を設置することで鳥類を誘致できるような空間も計画した。



低炭素認定を獲得

低炭素認定取得にあたり、以下3点を採用した。

1. 一次エネルギー消費量が省エネ法基準に比べ10%低減
2. 住宅性能劣化対策等級3確保
3. 主要構造部に高炉セメントを採用

これら温熱環境に配慮した取組みのメインピックスとして家庭用燃料電池コージェネレーションシステムの採用がある。家庭用燃料電池コージェネレーションシステムはクリーンエネルギーである天然ガスから水素を取り出し、空気中の酸素と化学反応させることで、電気を生み出す。電気を使う場所で発電するマイホーム発電なら、同時に発生する熱を給湯などに利用することができるため、エネルギーのムダを減らすことができる。居住者にとっては経済効果に優れた先進システムを導入した。



各住戸共用部に家庭用燃料電池コージェネレーションシステム設置

省エネルギー対策への取り組み

住宅設備機能としては、節湯型シャワー水栓、高断熱浴槽等を設けることで設備機器に関しても省エネ性能を確保した。これらの省エネ対策を行ったことにより低炭素認定を各住戸で獲得。人に、環境に優しい集合住宅の計画へと至った。

